

NEWS23 週刊報告 ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：4/23～4/27

・ 4/23(月)

北朝鮮問題、森友問題、セクハラ疑惑および自民議員の言動問題などについて報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の見地から検証を行いました。特に問題は見られませんでした。しかし、北朝鮮問題については一部印象操作が疑われるシーンが見られました。また、セクハラ疑惑については検証者の所感を記しました。

・ 4/24(火)

財務次官辞任、南北首脳会談まで 3 日、民進・希望の党の新党名は「国民民主党」、民進議員に暴言自衛官、財務省決裁文書改ざん問題などについて報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の見地から検証を行ったところ、財務次官辞任については問題のあるシーンが見られたと共に、印象操作についても疑いのあるシーンが見られました。また、番組の構成について検証者の所感を記しました。

・ 4/25(水)

林文科相謝罪と幹部が「解散」発言、南北首脳会談、「分断の最前線」、春の園遊会、辺野古護岸工事、オスプレイ奄美大島の空港に緊急着陸などについて報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の見地から検証を行ったところ、林文科相謝罪と幹部が「解散」発言については問題のあるシーンが見られました。

・ 4/26(木)

南北首脳会談、衆院予算委員会などについて報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の見地から検証を行ったところ、衆院予算委員会については他の放送日と併せて判断を行わなければ放送法に反していないという判断ができないものでした。また、南北首脳会談については検証者の所感を記しました。

・ 4/27(金)

南北首脳会談、福田前次官、日本銀行の政策決定会合、働き方改革法案、IR 法案閣議決定などについて報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の見地から検証を行ったところ、福田前次官についての報道では不十分な点がありました。また、福田前次官についてと番組全体の構成について検証者の所感を記しました。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年4月26日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：北朝鮮問題、森友問題、セクハラ疑惑および自民議員の言動問題		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウィリアム王子夫妻に第三子誕生 ・北朝鮮問題 ・森友問題 ・セクハラ疑惑および自民議員の言動問題 ・問われる危険運転致死罪 ・スポーツ ・テネシー銃のレストランでライフルを乱射 ・和歌山県白浜町での殺人事件 ・スポーツ ・23TODAY <ul style="list-style-type: none"> 北朝鮮核開発中止 森友問題で佐川氏聴取 ・家族旅行装い覚せい剤密輸 ・ポルシェであおり運転 ・北朝鮮で中国人観光客を乗せたバスが事故 ・天気予報 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨		
<ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮問題→結論：問題なし <p>今回の報道は北朝鮮問題についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は372秒であって、放送法第四条の観点から特に問題は見られなかった。</p> <p>北朝鮮の核実験とICBM大陸間弾道ミサイル発射実験の中止の発表についての報道で、「北朝鮮そして世界にとって非常に良いニュースで大きな進展だと手放しで評価した」とトランプ大統領はTwitterでツイート。しかし、その一方で北朝鮮問題の解決にはまだ長い道のりがある「うまくいくかもしれないうまくいかないかもしれない」ともツイート。</p> <p>これに対して、北朝鮮情勢に詳しいジャーナリスト平井久志氏「核開発の凍結を宣言しただけ」これ以上核実験しなくても我々（北朝鮮）は技術を習得したんだ”と保有した核を持って今後交渉にはいっていくスタート台についたにすぎないと解説した。</p> <p>一方、カナダで開かれているG7先進7か国外相会合では、河野太郎外相は「核武装した北朝鮮は決して認められないという点を申し上げここについては完全に一致を致しました」と述べた。</p> <p>日本政府も今回の北朝鮮の動きに警戒感を示しています。アメリカのマティス国防長官と会談した小野寺防衛</p>		

放送法遵守を求める視聴者の会

大臣は」小野寺五典防衛大臣「中距離・短距離 また我が国にとっては関心事にある弾道ミサイルについても当然今回の米朝首脳会談の中でその廃棄に向けてしっかりと求めていくと述べた。

そんな中行われた拉致被害者家族の集会で、米朝首脳会談の行方を見守る拉致被害者の家族の姿があった。横田めぐみさんの弟横田哲也さん(49)は「非核化よりもむしろ拉致問題解決の方が少しはまだハードルが低いと思う。拉致問題を解決できなければ非核化なんて絶対無理ですよ」と述べた。

スタジオで星キャスターは「拉致を核・ミサイル問題と一緒に話し合わなくちゃいけないんですけども、どうも最近見ていると韓国、北朝鮮、アメリカ、中国の4者協議で話を進めようというふうになっていますからここにどう日本が割り込んでいけるかがこれからの勝負どころだと思いますね。」と述べた。

・森友問題→結論：問題なし

今回の報道は森友問題についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は71秒であって、放送法第四条の観点から特に問題は見られなかった。

森友問題をめぐって捜査に動きについて、特捜部は改ざんへの関与について佐川氏に説明を求めた。佐川氏をめぐっては市民団体などが虚偽公文書作成の疑いなどで刑事告発したという内容であった。

なお、先月、国会で行われた証人喚問、佐川宣寿前理財局長は「刑事訴追のおそれがある」などとして改ざんの経緯について証言拒否した。

・セクハラ疑惑および自民議員の言動問題→結論：問題なし

今回の報道はセクハラ疑惑および自民議員の言動問題についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は441秒であって、放送法第四条の観点から特に問題は見られなかった。

財務省を呼んで行われた野党6党の合同ヒアリングで立憲民主党尾辻かな子衆議院議員は「一番私たちが求めるのは財務次官の本日中の処分と謝罪」と述べたが、野党側が福田事務次官の本日中の処分を認めた背景にはお金の問題があった。希望の党柚木道義衆議院議員「これ税金ですからね 本当に処分なくして退職金が満額支払われた場合に財務省として国民の理解を得られるとお考えになりますかと問い詰めた。

これに対し財務省の担当者は「国民の理解について私から申し上げるのは差し出がましいかなと思います。」と答えた。

自民党議員のTwitterが波紋を広げていると報じた。長尾たかし衆議院議員のTwitterへの書き込みの「こちらの方々は少なくとも私にとってはセクハラとは縁遠い方々です。私は皆さんにセクハラ致しませんことを宣言いたします！」とするツイートが問題となった。これに対し、長尾議員はツイートを削除し、謝罪した。

今日下村元文科大臣の以下の講演での発言が問題となった。「福田事務次官がとんでもない発言してるかもしれないけど、しかしそんなもの隠しテープで録っておいて、週刊誌に売っておること自体がハメられてますよねある意味では犯罪だと思うけど」という内容である。

下村氏は今夜「表現が不適切でした。直に撤回するとともに謝罪いたします。」とのコメントをだした。

このような中で、二階派のパーティーに出席した安倍首相は、「現在、行政に対する国民の信頼を揺るがす事態となっていて行政の長として本当にその責任を痛感しています。皆様方に大変なご心配をおかけしていることを改めておわび申し上げたい」と述べた。

支持率低下の一番の問題を聞いてみると、自民党平沢勝栄衆院議員は「国民が納得できるような形の説明責任が果たせていないということだろうと思いますと答えた。

スタジオで星キャスターは「柳瀬さんの問題とか麻生さんの問題とかありますけども、週末の世論調査を見ますと柳瀬さんの証人喚問は当然という意見が圧倒多数になってますよね。麻生さんの辞任についても半分が求めるようになってきてますので世論の変化を二階幹事長がどう裁定して判断して安倍総理と協議するかというのが今週の焦点になってくると思いますね。」と解説した。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・北朝鮮問題

スタジオで星キャスターは「拉致を核・ミサイル問題と一緒に話し合わなくちゃいけないんですけども、どうも最近見ていると韓国、北朝鮮、アメリカ、中国の4者協議で話を進めようというふうになっていますからここにどう日本が割り込んでいけるかがこれからの勝負どころだと思いますね。」と述べたが、実際の事実関係（4者協議で進めるという情報）は不明確にも関わらず、この報道では普通の注意で視聴を行う一般の視聴者に対してそれが事実であるかのような印象を抱かせるようなものであると考えられ、印象操作の疑いが濃厚といえる。

検証者所感

今回の放送については大きな問題点は見られなかったが、言葉刈りをポリティカルコレクトネスにより正当化したいのではないかとセクハラ疑惑に関する報道をみて思った。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年4月24日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：財務次官の辞任も残る火種、南北首脳会談まで3日、民進・希望の党の新党名は「国民民主党」、民進議員に暴言自衛官「“国民の敵” 言ってない」、財務省決裁文書改ざん問題で佐川氏 “改ざん関与” 認める		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ ・財務次官の辞任も残る火種 ・南北首脳会談まで3日 ・追い込まれる女子選手たち体重管理に潜む危険 ・キャサリン妃出産 “驚き” のスピード退院 ・小5男児を殴った “ハンマー男” 怒号響く確保の瞬間 ・民進・希望の党の新党名は「国民民主党」 ・民進議員に暴言自衛官 「“国民の敵” 言ってない」 ・財務省決裁文書改ざん問題で佐川氏 “改ざん関与” 認める ・スポーツ ・23TODAY <ul style="list-style-type: none"> 衣笠氏死去 福田財務次官辞任 ・千葉県原市で寝泊まりした同僚刺す ・ワゴン車が歩行者に、10日人死亡 ・アメリカレストランのテネシー州のレストランで銃乱射男逮捕 ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務次官の辞任も残る火種→結論：放送法第4条第4項に抵触する疑い <p>今回の報道は財務次官の辞任も残る火種の問題についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は131秒であって、放送法第4条第4項に抵触する疑いがある。</p> <p>福田財務次官の辞任が正式に決まり、政府は今日の閣議で福田財務次官の辞任を承認したものの国会の混乱は収まる見通しが立っていないという内容についての報道であり、以下のような麻生財務相と記者とのやり取りがあった。</p> <p>麻生太郎財務相は「本日の閣議において内閣の承認を得られたことから本日付で辞職させます。事務方のトップである事務次官ですので自身のセクハラ疑惑等々によって辞職するような事態に至ったことは甚だ遺憾だと思っております」と述べた。</p> <p>記者「福田次官本人は（セクハラを）やっていないというかたちだが事実認定はいつできるか問うと、麻生太郎財務相は「向こうが側（テレビ朝日）から話を聞いて双方の話を聞いたうえで弁護士に相談すると答えた。さ</p> 		

らに、記者が「例えば裁判に出るとかいう話になると？」と問うた。これに対して、麻生太郎財務相は「ありませんでしょうね」という発言があった。記者は「長期化も予想されるが」と発言すると、麻生太郎財務相「あり得るでしょうね それは」と答えた。

そして、記者は「いったん官房付にして調査結果が出て必要に応じて処分してから一辞任を認めるべきではないかという意見も（野党から）出ていたが」と聞くと、麻生太郎財務相「野党は（官房付の間の給与は）税金で払うべきだと言ってるの？言ってるの？聞いているんだよ俺が、質問しているんだから。野党がそう言ってるのはわかったけれどそのときの給与は誰が払うのか？野党が払ってくれるのか？」と返答。記者は「そこまでは」というと、麻生太郎財務相「誰が払うの？税金で払うの？」と返し、記者は「税金ということだと思います」と答えた。麻生太郎財務相は「どうして？問題だって辞めた人に対して何で税金で給与払わなくちゃいけないの？もうちょっと常識的なこと聞くようにしたら？」と記者に対して発言した。

次の麻生太郎財務相の発言を野党が問題視した。

麻生太郎財務相は「週刊誌の報道だけでセクハラがあったと認定してそのことで減給ということはいかなものかということになりますからはいめられて訴えられているんじゃないかとかご意見は世の中にいっぱいありますので本人の話と無効の話を双方うかがったうえでないとなかなか決められないと思いますけどね」と発の発言に、立憲民主党尾辻かな子衆院議員は「「はいめられて訴えられているんじゃないか」という発言があってこれは看過できない第二のセクハラじゃないか加害者の側にやっぱり立っているんじゃないかと」と批判した。

スタジオでは星キャスターは「今日のはめられて云々というのも加害者側だという意識が全く薄いですよ。まあ、これはあんまり難しい話じゃないんです。麻生さんが自分の部下だったわけですからね、福田さんに直接聞いてお前どうなってるんだ、これはと要は聞いて麻生さんがとりあえず処分すればいいっていう話ですからね。それをやらないっていうことは麻生さんの判断ミスだと私は思いますけども、まあ、そもそも文書の改ざんとか国税庁長官の辞任というだけでもね、私は財務大臣の辞任に値すると思うんですけども、そういう自覚が麻生さんには欠けていると思うんですけどね」と解説した。駒田キャスターが「派閥の長についたばかりに自民党の竹下総務会長が麻生さんの辞任論に触れましたけれども自民党内で広がっていきますかね。」と問うと、星キャスターは「自民党の今の雰囲気を一言でいえばみんな様子見を決め込んでいるということですかね。麻生さんを批判すると政権批判、政権に歯向かうのかとふうに受け止められかねないので様子を見てるということですけど、一方地元に戻るとですね、支持者からはどうなっているんだ、おかしいじゃないかと言われるので対応に苦慮しているというか板挟みに悩んでいるというのが現状でしょうね。」と述べた。

・南北首脳会談まで3日→結論：問題なし

今回の報道は南北首脳会談まで3日という問題についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は313秒であって、放送法第四条の観点から特に問題は見られなかった。

南北首脳会談まで3日という問題について、突如融和路線に舵を切った北朝鮮の動向について報じた。

拉致問題に関して、南北首脳会談の前に今日日本と韓国の間でもあらたな動きが韓国ムン・ジェイン大統領「日本人拉致問題の解決が東北アジアの平和の構築に役立つ」と述べ、韓国の大統領府によれば、今日午後韓国の文在演大統領は安倍総理と電話会談を行い、南北首脳会談で日本人の拉致問題を扱うと安倍首相に伝えたと報じた。

近平国家主席や被害者遺族らに深い哀悼の意を示した。最高指導者自らが事故対応に動くのは異例のことで、中国との関係を重視したものとみられると報じた。

南北首脳会談まであと3日で、60年以上にわたって停戦状態が続く南北の関係は今大きな転機を迎えており。徴兵制と徴兵に向かう若者についての取材を行った。

先週末ソウル中心部では徴兵制の改革を訴える集会が開かれ、徴兵制の改革を訴える集会であった。北朝鮮の挑発と戦争に備えるために作られたこの制度はもはやなくなって当然だと声を上げた。

ソウルからやってきたアン・ジュソンさんもその一人で、この日の入隊を目前に家族と昼食をとっていた際に、以下の会話をした。母親は「いつ戦争がおきるかわからないから若者は必ず行かなければならないのよ」という母親に対して、アンさんは「私の世代で一番不満が大きいのは時給300ウォン（約30円）ほどということ」父「徴兵はお金の問題じゃないでしょ」というやり取りがあった。

しかし、アンさんは「憂鬱です。韓国人だから仕方ない宿命だと考えています。」と答えた。一方で親世代の考え方は、母親は「昔は国のためになにをすべきかと考えていましたが、今の若者は（考え方が）全く違うんです。」という。記者が徴兵制度は変わるべきだと思うかという、アンさんは、「そうですね。志願制に変わるといいですね。」と答えた。

・民進・希望の党の新党名は「国民民主党」→結論：問題なし

今回の報道は民進・希望の党の新党名は「国民民主党」についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は61秒であって、放送法第四条の観点から特に問題は見られなかった。

民進党大塚耕平代表は、「(民進・希望の党の)新しい政党の名前は国民民主党とさせていただきます」と述べた。しかし、反対する議員が相当数いるため第一党は微妙な情勢です。

スタジオで星キャスターは「自民党に対抗できる野党の塊を作るって意味でね、一つになっていこうというのはわかるんですけども、まあ、肝心の一番大きな立憲民主党との合流というのはなかなかむつかしいんですね。原発問題などでちょっと意見の隔たりが大きいんですね。当面は来年の参議院選挙に向けて選挙区での調整といますか、すみわけをしながら連携を進めていくということでしょうね」

・民進議員に暴言自衛官「“国民の敵” 言ってない」→結論：問題なし

今回の報道は民進議員に暴言自衛官「“国民の敵” 言ってない」についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は37秒であって、放送法第四条の観点から特に問題は見られなかった。

自衛隊の3等空佐が民進党の小西議員に暴言を吐いた問題で、調査を実施し、今日、中間報告を実施しました。その中で3佐は「国益を損なうようなことをしている」「バカなのか」などの発言を認める一方「国民の敵」とは言っていないなどと話していることが明らかになった。

・財務省決裁文書改ざん問題で佐川氏“改ざん関与”認める→結論：問題なし

今回の報道は財務省決裁文書改ざん問題で佐川氏“改ざん関与”認めるという問題についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は31秒であって、放送法第四条の観点から特に問題は見られなかった。

森友問題をめぐる財務省決裁文書問題で当時理財局長であった佐川宣寿元国税庁長官が周辺に対し改ざんへ

NEWS23 週刊報告 詳細版

の関与を認めていることが関係者への謝罪で明らかになり、立件の可否を大阪地検特捜部は慎重し判断すると報じた。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・財務次官の辞任も残る火種

駒田キャスターが「派閥の長についたばかりに自民党の竹下総務会長が麻生さんの辞任論に触れましたけれども自民党内で広がっていきますかね。」と問うと、星キャスターは「自民党の今の雰囲気を一言でいえばみんな様子見を決め込んでいるということですかねと答えたが、実際の事実関係は不明確にも関わらず、この報道では普通の注意で視聴を行う一般の視聴者に対してそれが事実であるかのような印象を抱かせるようなものであると考えられ、印象操作の疑いが濃厚といえる。

検証者所感

今回は主要な対象が2つであったが、短いトピックが複数取り上げられていた。短い場合、当然のことだが、事実のみの報道となっているため、放送法上の問題等は生じにくいと思われる。

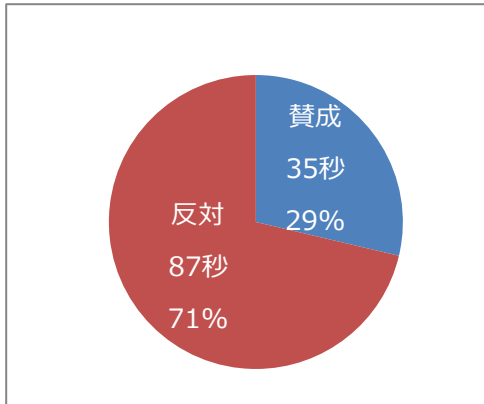
NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年4月25日
出演者：【キャスター】皆川玲奈、駒田健吾、雨宮塔子、星浩、宇内梨沙		
検証テーマ：林文科相謝罪と幹部が「解散」発言、南北首脳会談、「分断の最前線」、春の園遊会、辺野古護岸工事、オスプレイ奄美大島の空港に緊急着陸		
報道トピック一覧		
<ul style="list-style-type: none"> ・ TOKIO 山口達也 強制わいせつで書類送検 ・ 林文科相 公用車でヨガ通い謝罪 幹部から「解散」発言も ・ 南北首脳会談まであと2日 準備大詰め ・ 「分断の最前線」 融和と不信 ・ 春の園遊会 両陛下がメダリストらを祝福 ・ てるみくらぶ元社長 初公判 ・ 辺野古護岸工事から1年 ・ 元NHK記者に実刑判決 ・ スポーツ報道 ・ 23 トゥデイ <ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸製鋼データ改ざん 捜査へ ・ JR 福知山線脱線から13年 現場に献花台 ・ 普天間基地のオスプレイが奄美大島に緊急着陸 ・ 天気予報 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨		
<p>・ 林文科相謝罪と幹部が「解散」発言→結論：放送法第四条に違反</p> <p>冒頭、林文科大臣が公務の合間に公用車でヨガ教室に通っていたことを謝罪したことが報じられた。林文科相は「この度は国会が緊迫する中こうした騒ぎを起こしてしまったことをお詫び申し上げます。」「今回のケースは公務と公務の間でありまして、公用車仕様のルールに則ったものでありますが、今後は誤解を招かないように気を付けてまいらなければならないと思っております。」と謝罪した。また、林文科相が通っていたヨガ教室が「セクシー個室ヨガ教室」と報じられていた件についてヨガ教室の代表者が「セクシーヨガでもキャバクラヨガでもありません。いかがわしいことは一切ないし、ちゃんとしたヨガのレッスンだし・・・」と反論した。</p> <p>また、野党が国会審議を拒否している現状について与党に苛立ちが溜まっていることが報じられた上で、自民党の森山国対委員長が「内閣不信任が出されれば解散も選択肢のうちだと思います。」と発言したことが報じられ、そのことが波紋を呼んでいることが明らかにされた。また、与党内部からも解散に否定的な声が相次いだ。野党からも辻元国対委員長が「何言っているのかしら。困るのは与党じゃないかしら。脅かししら。そんな事を今おっしゃっている余裕が政府与党に無いんじゃないですか。」と発言、共産党の穀田国対委員長は「そういう事を言えばビビるかなと思ってるんですかね。やはり追い込まれた上での発言じゃないでしょうかね。」と発言した。</p> <p>最後にスタジオに戻り、星キャスターが「まあ、野党は審議拒否を続けているので、自民党の中には相当苛立ちが溜まっているのでしょう。野党への牽制ということが狙いでしょう。今日、自民党のベテラン職員に話しを</p>		

放送法遵守を求める視聴者の会

聞きましたが、今解散するとなると自民党は悲惨なことになる、と述べていました。これが本音でしょう。」「そうですね。安倍総理は相次ぐ不祥事に対して行政の問題として膿を出し切るとおっしゃっているんですけども、行政の問題が続いている時に立法院の一つである衆議院を解散するというのはどう見ても理屈が通らないんですね。」と解説した。

このトピックに関して賛否の時間計測を行った。結果は以下の通り。



結果を見ると反対に著しく時間配分が偏っていることが判る。これは放送法第四条第二項に違反すると考えられる。

・南北首脳会談→結論：問題なし

報道では冒頭、トランプ大統領が金正恩党委員長を評価する発言が報じられた。トランプ大統領は「金正恩党委員長は非常にオープンで、これまで見てきたところ尊敬に値する人物だと思う。」と発言した一方で、「もし会談が公正で合理的で良いものにならなければ私は席を立つ」と発言し、北朝鮮を牽制した。

また、南北首脳会談まであと2日として、会場が公開されたことが報じられた。海上の雰囲気は融和ムードを基調としたことなどが伝えられ、会談後の晩餐会のメニューについて報じられた。晩餐のメニューにおいてはデザートに朝鮮半島の地図が描かれている中に竹島があり、そのことが問題となっていることが明らかにされた。外務省は在日韓国大使館に強く抗議したことが明らかにされた。

今トピックでは経緯説明が中心であったため時間計測は行わなかった。

放送法第四条の観点から問題はみられなかった。

・「分断の最前線」→結論：問題なし

70年以上南北が分断されている状況で、38度線の境界付近にある「分断の最前線」において南北首脳会談などがどう受け止められているかなどの取材結果が報じられた。ソウルから車で1時間弱の距離にある展望台において韓国国民は「今までは首脳会談かくらいの気持ちでしたが、今回は多くの変化が期待できるかと思っています。」「今回は金正恩氏も約束を守ると思います。」と好意的にかつ希望的に受け止められている様子が伝えられた。

一方で、展望台周辺では兵器を持った兵士の姿が見られるなど緊張が残っていることが伝えられた。

その後、軍事境界線に隣接したマンウリという村の様子が伝えられた。村人のウ・ジョンイル氏は家に地下室

を作っていることを明らかにした。その上で北朝鮮について「北朝鮮に1日も早く考えを変えて欲しい。そうすれば同じ民族として大いに支援すべきです。」と発言した。村の人々は「金正恩氏もそこまで悪い人ではないと先入観を持つ必要はないと感じました。」「毎回言葉を翻したりするので信用できない人だと思いました。」「悪い癖が一朝一夕で直るものか疑わしい。」と期待と同時に不安の声もあがる様子が報じられた。

スタジオに戻り、星キャスターから「そうですね。今回の首脳会談のポイントは大きく分けて2つあるんですね。1つは抽選半島の非核化と朝鮮戦争の終結を宣言できるかどうか。この内非核化の方は詰めは米朝首脳会談でやることになると思いますが、朝鮮戦争の終結の方は65年前に一応停戦にはなっているんですけども、終結にはなっていないんですね。ですから、終結宣言をするとなるとこの次は平和協定を結ぶということになると思います。そうすると平和に向けて非常に大きな一歩となりますから、東アジアの平和にとって非常に画期的な変化になると思います。」という解説が為された。

今トピックにおいては経緯説明と韓国の国民の声が中心であり、放送法第四条の観点から問題は見られなかった。

・春の園遊会→結論：問題なし

天皇后両陛下主催の春の園遊会が赤坂御苑において開催されたことが伝えられた。参加者は今年2月のピョンチャンオリンピックで活躍したメダリストなど各界の功労者2000人近くと報じられた。

参加した羽生結弦氏や小平奈緒氏、羽生善治氏、井山裕太氏などが両陛下と交流する様子が伝えられた。

今トピックでは放送法第四条の観点から問題は見られなかった。

・辺野古護岸工事→結論：問題なし

沖縄県名護市辺野古基地の埋め立て問題において護岸工事に着手してから一年が経過したことが伝えられた。これに対して市民が抗議している様子が伝えられた。

今トピックでは経緯説明のみの報道で、放送法第四条の観点から問題は見られなかった。

・オスプレイ奄美大島の空港に緊急着陸→結論：問題なし

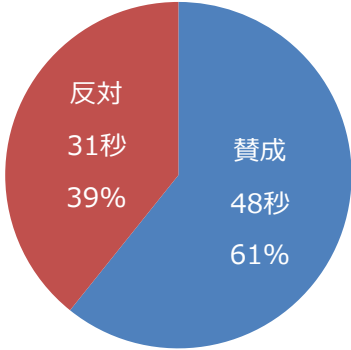
沖縄県普天間基地所属のオスプレイ2機が鹿児島県・奄美大島の空港に緊急着陸したことが伝えられた。緊急着陸の理由として1機に警告灯が灯ったことが理由と伝えられた。

経緯説明のみの報道であったため、放送法第四条の観点から問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし。

検証者所感
特になし。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局： TBS	番組名： NEWS23	放送日： 2018 年 4 月 26 日									
出演者： 星浩、雨宮塔子、皆川玲菜、駒田健吾、宇内梨沙											
検証テーマ： 南北首脳会談、衆院予算委員会											
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TOKIO <ul style="list-style-type: none"> ・ 南北首脳会談 ・ 衆院予算委員会 ・ 広島受刑者逃走 ・ 名古屋市男性行方不明 ・ 大川小控訴審 ・ スポーツ情報 ・ 23Today <ul style="list-style-type: none"> 山口達也メンバーの書類送検 南北首脳会談 国会近くで「ポルシェ」炎上 平昌五輪メダリストに感謝状 新型ロボット ・ 天気予報 											
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南北首脳会談→結論：特に問題は見られず <p>27 日の午前中に行われる見込みの南北首脳会談についての報道。以下が賛否の時間及び比率である。</p>											
 <table border="1"> <caption>賛否の時間及び比率</caption> <thead> <tr> <th>意見</th> <th>時間 (秒)</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>賛成</td> <td>48</td> <td>61%</td> </tr> <tr> <td>反対</td> <td>31</td> <td>39%</td> </tr> </tbody> </table>			意見	時間 (秒)	比率 (%)	賛成	48	61%	反対	31	39%
意見	時間 (秒)	比率 (%)									
賛成	48	61%									
反対	31	39%									
<p>報道の内容は前半部では「北朝鮮側の板門閣の前に到着した正恩氏は歩いて軍事境界線を越え午前 9 時半で迎えたムンジェイン大統領と握手をします。その 10 分後自由の家の前に移動した二人は韓国の儀仗隊による歓迎式典に臨み、続いて隣にある平和の家に移動一回で記念撮影を行い、2 階の会議室で午前 10 時半から首</p>											

脳会談を開始します。首脳会談は昼頃に一時中断。軍事境界線近くで松の木の共同食事を行い、二人で近隣を散歩する予定です。この散歩について韓国政府は「平和と新しい始まりを象徴する現場になる。」とコメントしています。平和の家に戻った二人は午後の階段に臨み、そして午後 6 時半から場所を 3 階の食堂に移し歓迎晩餐会を。さらに平和の家全面をスクリーンにして特別映像を流すという歓迎行事も行うということです。」と会談のスケジュールが事細かに報道されていた。

以上のような予定で行われる首脳会談を受けて韓国の市民たちが寺院で成功祈願のお祈りをしている様子も映し出され市民たちは「大韓民国の平和が安定するための協議になって欲しい。そのような意味を持って私なりの心をこめて仏様にお祈りをしました。」とコメントしていた。

また専門家の意見として北朝鮮情勢に詳しいジャーナリストとして平井久志氏が紹介され、「今回注目すべきは軍人 2 人が含まれているということ。」「朝鮮半島の休戦協定を平和協定に変えるため平和宣言というものをするんだよと、そういう姿勢を示唆しているような、そういうメンバー構成ではないかなと。」と随行の高官の構成について解説をしていた。

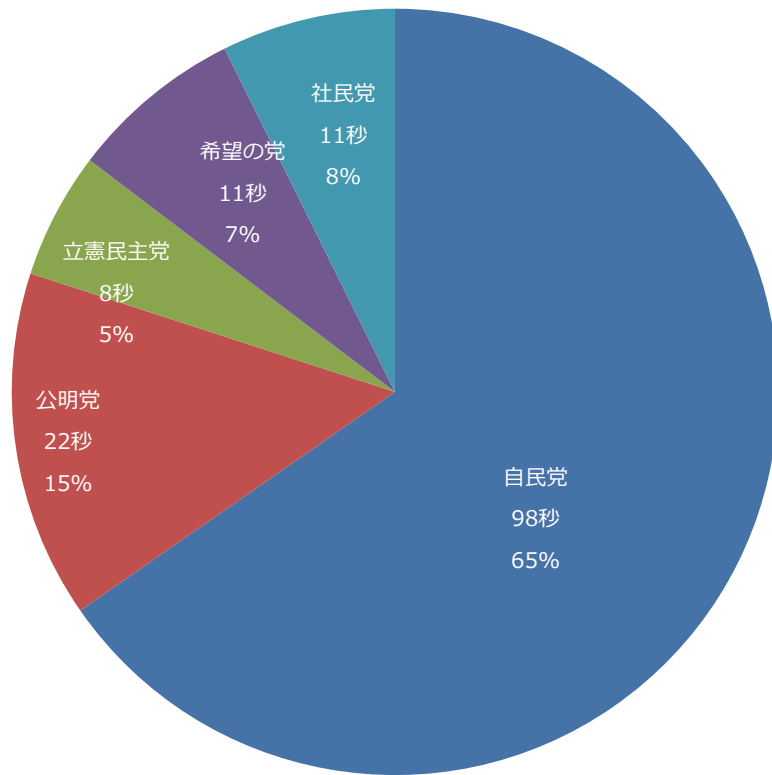
同報道の後半部では脱北女性にインタビューが紹介されていた。脱北女性は「韓国の人は今まで騙されてきたのにどうしてまた騙されようとするのか分かりません。」「(平昌五輪を見て) 文大統領が北の人に会って笑ったりしているのを見ました。そのような姿を見るだけで本当に目から怒りがほとぼしるようです。」と南北融和に否定的なコメントを残していた。

全体としては賛成意見が目立つものの許容できる範囲内であり、放送法四条の見地からは大きな問題はないと考える。

・衆院予算委員会→結論：他の放送日との総合的な判断が必要。

野党側が欠席した状況で衆院予算委員会の集中審議が行われたことについての報道。野党側の質問時間を消化するため 1 時間 50 分にわたって沈黙している国会の様子が映し出されていた。

同報道内において政党別に発言の比率をまとめたのが以下のグラフである。



自民党議員の発言としては小泉進次郎氏が野党の国会を欠席したことをうけて「不思議な民主主義の形ですよ。野党が国会に出てこなくて一部では解散という言葉がささやかれ、解散というのは野党にとっては政権を倒すチャンスなのに解散を恐れおののく野党というすごく奇妙な状況だなど。」と批判していた。

また公明党の公明党山口那津男代表も同じく「かたくなに棒を飲んだように欠席を決めてかかるということはいかななものか。国会の委員会や本会議の外でいろいろと主張を重ねるだけでは、国民には伝わらないと思う。」と野党の行動に否定的な見解を示した。

大して野党側は立憲民主党の枝野幸男代表が「いろんところで改ざんだ隠蔽だいい加減な答弁だというのが相次いでいて、とてもじゃないけれども本当の意味での議論が進まない。」と反論していた。また希望の党の玉木雄一郎代表は自民党の森山裕国対委員長が解散を示唆したことを受けて「解散総選挙を口走る与党幹部が出てきておりますから我々としても解散を打たれたら受けて立つと。」と発言していた。

比率のみで結論すると自民党議員の発言比率が極めて高く、放送法第四条第一項二号の「政治的に公平であること」の観点から十分とは言えない。しかし国会を野党議員が欠席したため国会での議論において野党議員の発言が皆無であったこと、また今報道でのテーマが「国会」であったことを考慮すると放送法に抵触しているとは

NEWS23 週刊報告 詳細版

今回の報道のみでは断言できず、他放送日との総合的な判断が必要と考える。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

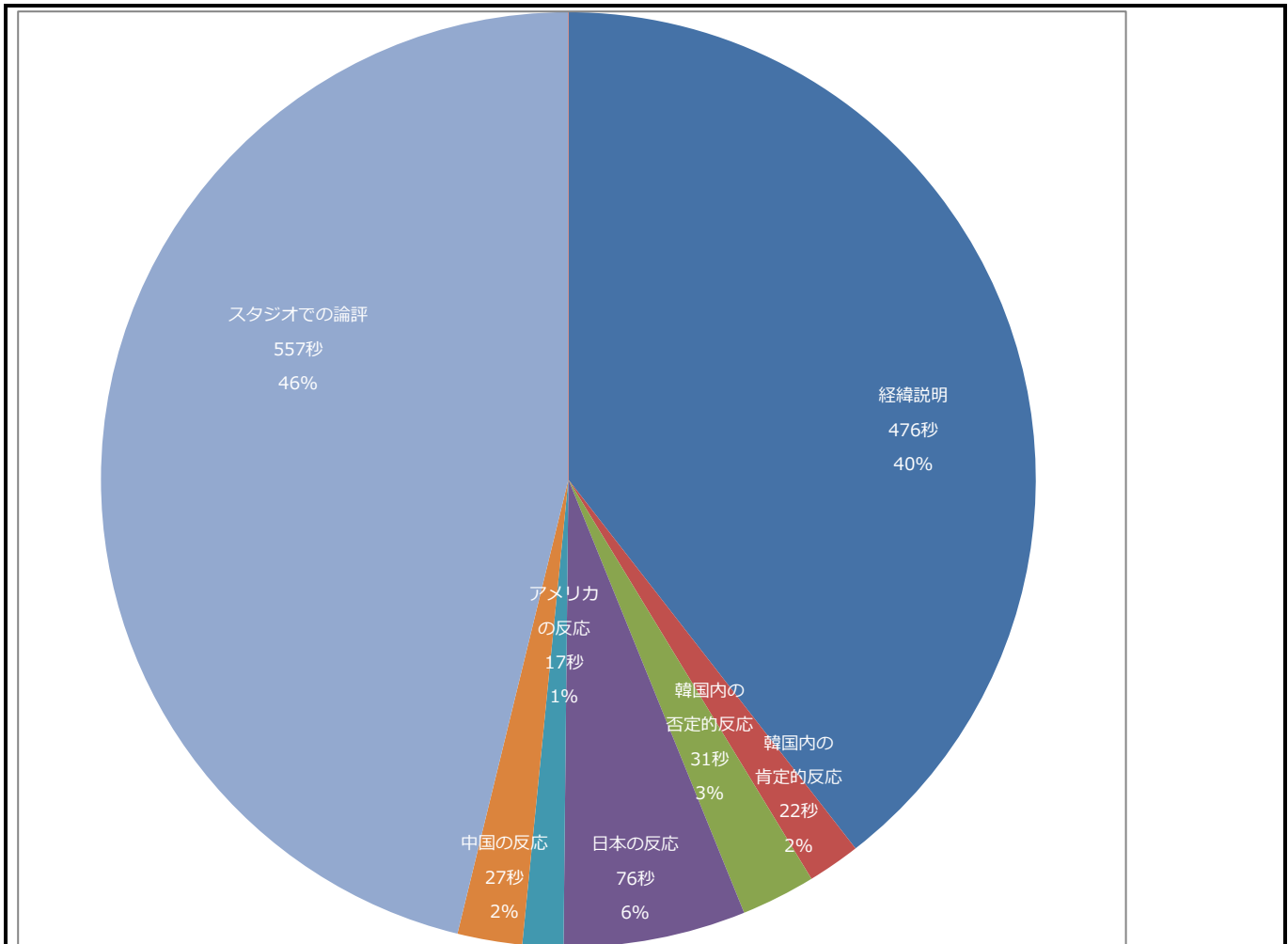
検証者所感

・南北首脳会談

スタジオ内で星浩氏が「35年間、日本の植民地支配がありまして、その後冷戦の時には冷戦の最前線として国を二分して朝鮮戦争があったわけですね。ですから私達は隣国が分断から融和に動くってことをやはり支援していく責任はあるとおもうんですね。」と発言していた。分断から統一へというのは理解できるが、分断から融和へという表現は融和政策に対して肯定的な印象を視聴者に与えかねないものである。この発言をもって印象操作とは言えないものの注意が必要であると考えます。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年4月27日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙 ゲストコメンテーター：平井久志(朝鮮情勢に詳しいジャーナリスト)		
検証テーマ：南北首脳会談、福田前次官、日本銀行の政策決定会合、働き方改革法案、IR 法案閣議決定		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北首脳会談 ・福田前次官 ・ハリル監督の解任 ・日本銀行の政策決定会合 ・働き方改革法案 ・ロシア W 杯まで後 47 日、優勝トロフィーがスタジオに ・スポーツ報道 ・23Today 南北首脳会談 福田次官 IR 法案閣議決定 伊調選手パワハラ問題 ウィリアム王子夫妻第三子「ルイ王子」と命名 ・天気予報 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北首脳会談：結論→特に問題なし <p>南北首脳会談について報じられた、このトピックに当てられた時間は 1192 秒で、経緯説明、韓国内の肯定的反応と否定的反応、日本での反応、アメリカの反応、スタジオでの論評という 7 つのポイントが取り上げられていた。それぞれの時間配分及び比率は以下の通りである。</p>		



経緯説明では南北首脳会談の様子が取り上げられていた。VTRの論調は概ね好意的なものであった。

韓国内の反応では、肯定的な反応と否定的(懐疑的)な反応が取り上げられていた。

日本の反応では「ちょっと人間味と言うか親しみみたいなのはできたのかなと」や「パフォーマンス的なのは強い気がしますけどね」といった街の声と、横田早紀江氏の「ここまで40年近くかかりましたけれども、その中でなにかいいように本当に解決に向かっていってほしいな、と。」というコメントや飯塚繁雄氏の「今日の段階では我々の期待に対して、ちょっとがっかりかな、と。日本人拉致の問題はその後の米朝の会談でも今度のははっきりと出すと、トランプ大統領も言ってますのでそれに期待するしかないんですけども、日本の出処がないという印象がどうしても否めないですね。」という拉致被害者家族のコメント、そして政府では安倍首相の「北朝鮮を巡る所化案の包括的な解決に向けた前向きな動きと、歓迎します。」というコメントおよび「日本が蚊帳の外に置かれてしまうというような懸念についてはいかがでしょうか。」という記者に対する安倍首相の「それは全くありません。」という返答が取り上げられていた。

アメリカの反応ではトランプ大統領の「朝鮮戦争終結へ、アメリカとその偉大な人々は今韓国で行われていることを誇りに思うべきだ。」というツイートが取り上げられていた。

中国の反応では中国外務省の華春莹報道官の「南北の指導者がこの歴史的一步を踏み出したことに拍手し、彼らが示した政治的決断と勇気を称賛する」というコメントが紹介されると共に、国営テレビが金正恩党委員長が

党委員長が軍事境界線を超える様子をニュース専門チャンネル以外でも生中継で伝えたということが報じられた。

スタジオでは南北首脳会談の VTR を承けて以下に朱記したやり取りが繰り広げられていた。

雨宮塔子「今日の会談を振り返りましたが星さんはどのようにご覧になりましたか？」

星浩「そうですね、南北が終戦に向けてね、動き出すんだという雰囲気作りは成功したんだと思いますけども、肝心の非核化については前進がないんですね、まあスタート台にたったとということだと思いませんか、はい。」

雨宮塔子「そして今日は北朝鮮情勢に詳しい平井久志さんにも起こしただいています、よろしくおねがいます。」

平井久志「よろしくおねがいます」

雨宮塔子「平井さんは今日の会談どうお感じになりましたか。」

平井久志「そうですね、まあ板門店という非常に分断の象徴のような場に北朝鮮の最高指導者が来たこと、その事自体は非常に朝鮮半島情勢が大きな転換点を迎えているということを示す歴史的な日だったと思いますね。」

駒田健吾「その歴史的な日をですね、今日は様々なシーンが彩ったわけなんですけど、まずは冒頭、おやつと思っただ方もいらっしゃると思います、まずはこのシーンをご覧ください。」

駒田健吾「こちら、両首脳が最初に顔を合わせたシーンなんですけど、両首脳が握手を交わしました。そしてその後ですね、ムン大統領が金委員長を韓国側へ迎え入れました、そして記念撮影を行って、その後です。今度はですね金党委員長に促されましてムン大統領が北朝鮮側に入ったんですね、これは予定されていなかったということで、実はこのとき、こんなやり取りがあったんですね、ムン大統領が『私はいつ境界線を越えられるだろうか』と話したところ金党委員長から『じゃあ今行きましょう』というやり取りがあったんですね、平井さん、まさにこれは金党委員長のアドリブということではよろしいのでしょうか。」

平井久志「そうですね、今日まあ一番非常に印象に残ったシーンですけどね、わずか高さ 5 センチ幅 50 センチ位のそういうものが持っている意味というのを改めて考え直させられました。それともう一個、金正恩さんという人がムン大統領の言葉に対して非常に機転を利かせてすばやく判断したと、そういう能力を持った人なんだということも一方で印象付けましたね。」

皆川玲奈「そして両首脳、今日一日ですね朝から 7 時間 30 分を共に過ごしたわけなんですけれども、平井さんはこの日程道ご覧になりますか。」

平井久志「まあ長い時間、一緒にいたということに意味があると思うんですけども本当の会談というのは午前中の 100 分程度、そして後 30 分あまり橋の上でやった 2 人基地の会談、その短い時間にしては非常にはやく共同、合意文ができているということなんですけど、ですからこれは裏返して言えば非常に綿密に南北間で事前の協議があったのではないのか、特に韓国の国家情報院と北朝鮮の統一戦線部の間での非常に会談前の密接な協力関係というのを感じますね、これはおそらく米朝に行った場合にはアメリカの CIA がコミットしてくるんじゃないかな、と。」

雨宮塔子「そういう意味でも今日の具体的な成果が一番気になるんですが皆川さん」

皆川玲奈「そうですね、大きく分けて焦点は 3 つあります、まず非核化についてですけども完全な非核化を目標にということですが、平井さん」

平井久志「あの、非核化について北朝鮮はこれまで韓国を通じて言ったり中国を通じていったりしているんです

けれども、北朝鮮自身から何かを言ったことはなかったんですね、そういう意味では非核化という言葉は最高指導者の文書として残したということには非常に意味があると思うんですね、ただ非常に表現が抽象的な表現で終わったということでどういう意味かなと言うことでいろんな解釈が可能だと、例えば完全な非核化と言った場合には北朝鮮はひょっとしたらグアムにあるような戦略兵器で核を持ち込むな、とかそういう事を考えているのかなと思わせたり、これはあくまで目標なんですよ、だから出口論である、と。アメリカは入り口ですぐに核を放棄しろと言っているので今後の米朝の間でもこのことが非常に議論になるなということの有る意味で予感させるような内容だったんじゃないかな、という。」

皆川玲奈「そして南北関係については年内に終戦宣言をし平和協定へと言う流れで、三者または四者会談、kの枠組みについては平井さんどう思いますか。」

平井久志「そうですね、まあ日本は入っていないんですけども仕方ないと思いますね。これは朝鮮戦争の当事者たちが休戦協定を平和協定に変えるということですからある意味この戦争の当事者たちが集まって2007年の盧武鉉さんがいったときも同じようなことを合意しているんですね、それを受け継いだ合意ではないかな、と。ただ、南北間の戦争を終わらせるという非常に強い意識は感じました。」

皆川玲奈「そして日本にとっては大切な拉致問題は共同宣言では触れられませんでしたね、星さん。」

星浩「まあ、日本政府はムン大統領に頼んで拉致問題を取り上げてくれと言われたんで、今回発表されていないので非常に残念なんですけど、半分予想通りかなという面もありまして、トランプ大統領を通じて本格的に拉致問題に取り組もうというわけなんですけれども、日本もこれから独自にですね北朝鮮と接触するなど含めて拉致問題に取り組む姿勢が必要になってくると思いますね。」

雨宮塔子「それではここで韓国のプレスセンターにいる井田さんです。韓国国内の今日の受け止めに教えてください。」

井田重利「はい、今回の会談に対する世論の期待は高かったですし南北の首脳が合意文で非核化を明記するのは初めて、それもですね完全な非核化と強い表現で明記されましたので、韓国の国民も十分納得できる内容になりました。板門店宣言は曖昧な部分も多いんですけども韓国統一省の関係者は私達の取材に対して非核化に対する合意は米朝首脳会談を控えているのでこの程度が最善だったと話しています。現段階では南北両国だけでできる最大限の表現で朝鮮半島の平和という目標を高らかに宣言した形です。」

雨宮塔子「パフォーマンス先行という批判も聞こえますよね。」

井田重利「はい、両首脳の出会いかから分かれまでですね、周到に準備された演出はですね、世界各地からプレスセンターに集まった記者たちもですね感動したり笑ったりとまるで映画やミュージカルを見るように板門店からの映像に釘付けになりました。南北会談の成功というムン・ジェイン大統領の彼岸はですね、金党委員長の絶妙な反応のおかげでですね、想定以上の成果を取めたと言えます。しかし、非核化の具体的な時期やプロセスはこれからです。決して後戻りはしないと明言した金正恩党委員長が米朝首脳会談などを通じて非核化をどのように実行に移すのかが今後の焦点となります。」

また、各国の反応を取り上げたVTRの後にはスタジオで、以下に朱記したやり取りが繰り返されてきた。

雨宮塔子「続いてワシントンと中継を結びます。佐藤さん、米朝会談に向けた展望はどうなっていますか。」

佐藤祥太「はい、外交的成果のない、トランプ政権はですね11月の中間選挙を睨んでこの問題の解決を実績に掲げたい考えです。昨日もですね、米朝交渉の主導役で国務長官に就任したの腹心ポンペオ氏と金委員長の会

談の写真を公開するなど、連日ですね、交渉の進展ぶりをアピールしています、ただ、トランプ政権は板門店宣言で下駄を預けられた格好の完全な非核化に具体的な道筋をつけるという高い壁に挑むわけですが、ワシントンの専門家の間では北朝鮮の完全な非核化はありえず、仮に段階的な縮減に合意したとしても、細部を詰めていくためには長時間が必要だという見方が支配的です。ここまで、巧みに融和ムードを主導し南北首脳会談でも実質的な譲歩を回避した北朝鮮を相手に、そもそもが大向こうウケ狙いで実績づくりを急ぐトランプ氏にとっては厳しい道程が残されているのが実情です。」

星浩「結局、非核化の問題はその、凍結でしるいのでいききたい北朝鮮と、やっぱり完全放棄を飲ませたいアメリカっていうところではまださがあるんですね、これをその米朝首脳会談に向けてどういうせめぎあいをしるいのでいくか、ってというのはこれから続くと思いますね。」

雨宮塔子「そういう意味では今日は始まりに過ぎないということですね。」

平井久志「あの、まあそうですね、大きな朝鮮半島動き出しているんですけども、この動き始めた朝鮮半島情勢が本当に中身が出るのかどうか、特に非核化の問題、朝鮮半島の平和構造の問題、そういう大きな節目にはあるんですけども、まだまだ、この内実のある、意味のある結果を出すためにはいろんなコミットが必要ではないかなという感じはしますね。」

駒田健吾「そういった意味では今後このような会談が行われるわけです。5月上旬の日中韓など、やはり星さん注目は6月上旬までといわれている米朝首脳会談ということになりますか。」

星浩「そうですね、米朝首脳会談で、拉致・核ミサイル問題がどこまで進展するか最大のポイントなんですが南北が今日こういう形で動き出したので東アジアの平和と安定が進むというのは日本にとってもものすごいメリットがあることですから、日本もですね主体的にこれから動き出していくということが問われていくことだと思いますね。」

雨宮塔子「ここまで平井さんにお付き合いいただきました、ありがとうございました。」

VTRの作り自体は南北首脳会談については好意的な取り上げ方をしたものであったが、一般論として悪い話ではない上に、日米中と近隣各国からも歓迎されたものであることから、そうした取り上げ方は放送法第四条の見地に照らしてもおかしなものではなかった。また、南北首脳会談の重要性を鑑みても、このトピックに費やされた時間は妥当であると言える。

・福田前財務事務次官：結論→やや不十分

財務省の福田前事務次官のセクハラ疑惑について、福田前次官本人は否定する中で財務省は認めたということが報じられた。財務省では矢野康治官房長の「行政の信頼を損ね、国会審議にも混乱をもたらす結果となっておりますことは誠にいかんであります、関係者の皆様には深くお詫びを申し上げます。」というコメントと、本人が否定する中で財務省はセクハラ行為があったと認定したことについて伊藤豊秘書課長の「明確な記憶もしくは例えば物的な証拠を持って福田氏がそのように反論しているということは確認できていないということです。」というコメントが取り上げられていた。

また、処分発表のおよそ8時間前の麻生財務大臣と記者のやり取りでは以下に朱記したやり取りが取り上げられていた。

記者「福田前次官への調査などの再聴取等はその後行っているのでしょうか。」

麻生財務相「官房長に聞いてください。」

記者「ご自身セクハラに対しての認識は高いとお考えですか。」

麻生財務相「そうですね。」

記者「そうですね、ご自身は高いと。」

麻生財務相「そうですねってのは肯定語だと思いますが。」

記者「念の為確認した次第です」

麻生財務相「ね、テレビ朝日の取材能力のレベルが分かります、はいどうぞ。」

スタジオでは今回の処分について以下に朱記したコメントがされていた。

雨宮塔子「はい、福田前次官が否定する中、セクハラ認定して処分、星さん異例の対応ですよ。」

星浩「この間、麻生大臣は何をしたんだろうということですよ。その、福田前次官の上司である麻生さんはやはり直接本人から聞く、記者会見を自分で開く、それからテレビ朝日にもお詫びをするっていうのは麻生さんがやる必要があると思うんですけども、3つとも事務方任せなんですよ。これじゃあ大臣の責任を果たしているとは到底言えないと思いますけどね。」

このトピックについて当てられた時間は 209 秒だった。

星キャスターのコメントについては次官のセクハラ、それもおよそ職務とは異なる場所での疑惑についてまで麻生大臣が責任を取るべきとの趣旨に聞こえるが、そうした官僚の政策決定や制度運用などの職務以外での不祥事に対して政治家が責任を果たすということであれば、政治家とくに大臣の官僚に対する人事権は実質的にも強化していかなければならないだろう。また、職務以外での不祥事の有無をチェックする身辺検査などもより必要性を増してくるだろう。こうした不祥事については事務方任せとなっているということは、逆に言えば財務省の人事についてはまだ政治よりも財務省がイニシアチブを握っているという見方もできる。

いずれにせよ、こうした不祥事に対して「大臣の責任」を求めるということは、大臣に責任を果たすあるいはこうした不祥事を未然に防ぐためにもより権限を強化するという話になってくるが、それは官僚と政治家の関係を大きく変えうることである。そうした点を考慮したり報道中で深掘りしたりすることなく、単なるその場への反応で「大臣の責任を果たしているとは到底言えない」などとコメントするのは放送法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点では不十分と言わざるを得ない。

・日本銀行の政策決定会合：結論→特に問題なし

日本銀行が金融政策決定会合で今の大規模な金融緩和策を維持することを決めたこと、一方でこれまで 2019 年度頃になる可能性が高いと明記してきた 2%の物価上昇の達成時期に関する文言は今回削除されたことが報じられた。このトピックについて当てられた時間は 23 秒で、放送法第四条の見地からは特に問題と言える箇所は見られなかった。

・働き方改革法案：結論→特に問題なし

国会では安倍内閣が再重要法案に位置付ける働き方改革関連法案の審議が始まったこと、主な野党は今日も欠

席を続けていて審議入り強行に反発を強めていることが報じられた。このトピックについて当てられた時間は 27 秒で放送法第四条の見地からは特に問題と言える箇所は見られなかった

・ IR 法案閣議決定：結論→特に問題なし

カジノを含む IR 統合型リゾートの整備法案が閣議決定されたこと、IR を整備できるのは最大で全国三箇所都道府県などから多くの申請がある場合、政府が整備計画を審査し選ぶことになること、ギャンブル依存症対策のため日本人のカジノへの入場回数制限や入場料 6000 円を徴収することとしたということが、報じられた。このトピックについて当てられた時間は 29 秒で、放送法第四条の見地からは特に問題と言える箇所は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感

・ 福田前次官

そもそも、事務次官になった人物にセクハラ疑惑が浮上するという自体、前例が少ないことなのだからそれへの対応はどういった対応であれ異例になるのは当然ではないだろうか。雨宮キャスターのコメントでは特認が疑惑を否定する中で財務省がセクハラ認定をした上で処分することを異例と言っているのに対し、星キャスターのコメントでは「テレビ朝日にもお詫びをする」というのも麻生大臣がやるべきだとしているが、そもそもセクハラ疑惑が事実でなかった場合は麻生大臣も財務省もテレビ朝日にお詫びをする必要はないのではなかろうか。この問題は外野からあれこれと詮索するよりも司法の場に委ねたほうがよいのではないだろうか。

・ 番組全体でのトピックの取り上げ方について

今回は南北首脳会談の報道に厚みを持たせた構成となっていた。他方で、働き方改革関連法案や日銀の政策決定会合、IR 法案の閣議決定などは相応に重要性があるにもかかわらず扱いとしては軽い扱いだった。福田前次官のセクハラ疑惑と働き方改革関連法案や日銀の政策決定会合など政策的な問題について、どちらが重要なのだろうか。